



肛門^{のう}囊^{えん}炎^{って?}



「肛門腺（肛門囊）」という分泌物をためる袋が炎症を起こした状態。

通常、排便や興奮したときなどに自然と出る分泌物が、何らかの原因で詰まったり細菌感染が起こったりして炎症を起こしている状態。動物病院での治療が必要で、悪化すると肛門腺が破裂して、お尻の皮膚に穴があく恐れがあるため放置は禁物です。

主な初期症状

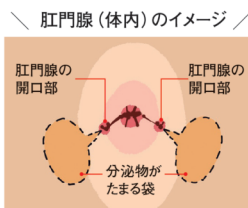
- お尻まわりを集中的に、頻繁になめる
- お尻を床などにこすり付け、その体勢でズリズリ歩く（お尻歩き）

治療法

軽度の肛門囊炎の場合、2〜3カ月に1回肛門腺絞りを行ったり、抗生物質を投与したりして治療します。猫によっては、慢性化した肛門囊炎が、どんどん悪化してしまうことがありますので、場合によっては手術になるケースも。手術は、肛門周辺の皮膚を切開して、左右にある肛門腺を取り出し、丁寧に剥離して除去します。比較的肛門囊炎になりやすい犬では珍しい手術ではなく、猫でも難しい処置ではありませんので、不安な場合は一度、かかりつけの獣医師に相談してみましよう。

肛門腺（肛門囊）とは？

猫の肛門をよく観察すると左右に小さな穴があります。その奥にある、強いニオイの分泌物がたまる2カ所の袋を肛門腺（肛門囊）といいます。猫の体内にあるため、体の外からは肛門腺の開口部だけが見え、猫によっては肉眼では見えにくい場合もあります。



予防法

肛門まわりをシャワーで洗い流すなどして清潔に保つと予防につながります。

お尻の汚れ落としは部分洗いでOK。猫用シャンプー剤を使い、シャワーで洗い流しましょう。ただ、濡れることを嫌う猫に無理強い禁物。排便のたびにカット綿をぬるま湯で濡らして拭いても良いでしょう。



肛門腺の絞り方

肛門腺を詰まったままにしておくと、肛門囊炎が悪化する恐れがあるので、肛門腺を絞る必要があります。肛門腺の絞り方は、片手で猫のしっぽを持ち上げ、反対の手の親指と人さし指をあて、体内にある肛門腺の袋をつまむようにグッと押し上げます。1〜2回絞り、分泌物が出てこなくなればOKです。

